

平成24年度 一般会計補正予算に対する 修正動議を提出

県西総合病院負担金の歳出4款1項1目19節負担金補助及び交付金1,195万円を削除、減額修正を求めるものです。

新中核病院建設構想については、筑西市、桜川市にとって、昨年来の懸案事項であるが、桜川市議会においては全員一致の決議をはじめ、終始一貫、市長及び関係者に対し、申し入れを行ってきたところである。

- ① 経営形態の民営化
- ② 桜川市の医療の核となってきた県西総合病院の存続
- ③ 茨城県を主体とする下妻・筑西広域医療圏の再構築と応分の負担
- ④ 医師など医療従事者の意見を聴取した上で建設地の選定

しかし、これらの申し入れについて、市長は方針や自身の考え方も示されず、1年が経過して今日に至っている。桜川市の医療再生については待たなしの状態であるため、新たに県西総合病院を核とする現実的、かつ負担可能な医療再生の一步を踏み出すためには、現構想を白紙に戻す必要に迫られていると考えるものである。

平成24年度 一般会計補正予算 を修正可決

平成24年度一般会計補正予算のうち、衛生費・保健衛生総務事業1,195万円（県西総合病院負担金）を削除する減額修正動議が提出され、可否同数により議長裁決で可決しました。提案趣旨は、平成23年度予算審議において、2度否決されたものと同じ内容の予算を削除し、減額修正を求めるものです。

減額修正案に対する 反対 討論

● 県西総合病院組合負担金

一、一九五万円に賛成する。理由は、県西総合病院、筑西市民病院とともに、このままでは立ち行かない。そんな中、昨年三月十一日に東日本大震災が発生し、県西総合病院も大きな痛手を受けた。その後、市長から中核病院建設の提案を受けたが、どんな病院建設設計画か見てからでも反対は遅くはないと考え、修正動議に

は賛成できない。

● 筑波大学付属病院で院長先生をはじめ、八名のメンバーから県西地域の医療再生について話を伺い、「今の県西病院の医療設備では若い医師が研修先として選ぶことはあり得ない」「若い医師に来てもらえるようなハードやソフトを構築し、きちんとした県西病院をつくっていただければ考

えが変わる」「県西病院をちよつと直しただけでは無理だ」と言われた。筑西市と桜川市で中核病院をつくる方向に進むときは、「市民や行政、地元医師会と連携して協力する」との返事をいただいた。桜川市議会の中には、「新中核病院と県西病院、筑西市民病院を抱えれば毎年とんでもない赤字が出て借金が残る」と心配している議員もいると

主な質疑

問 県西総合病院負担金一、一九五万円は、私は中核病院立ち上げ予算と呼んでいる。今回否決されても、平成二十五年度末の着工は無理だと思うが、この課題はどのようにクリアしていくのか。（中核病院建設の地域医療再生基金を使う条件は、平成二十五年度末着工となっている）

答 現段階では、確かに着工は無理ですが、事業認可

が間に合うので、それをもって「事業着手」とみなしていただくよう働きかけていきます。

問 県西総合病院負担金を「減額修正」する議案が提出されたが、これは、市が提案している中核病院には断固反対すると考えていいのか。

答 いったん白紙に戻すということです。

の質問に対し、「それなら最初から大きな病院をつくらず、地域の身の丈に合った病院をつくってはどうか。三十人前後の医師と二五〇〇〇床ぐらいで

高度な医療体制と機器を整備し、若い医師が継続的に来るようなシステムをつくれれば、医師のスキルアップにもなり、高度な医療（高額な医療）により収益率も相当上がる」と言われた。優秀な事務長、優秀なトップ、優秀な医者、優れた技術・技量・医療機器をそろえれば赤字は出にくいと思う。県西病院の経験を生かし、新しい病院建設を前向きに考え、市民にも分かりやすく説明し、みんなの力で立ち上げていくことが市長や我々議員の責任である。よって今回の修正動議には反対する。

● 今回の補正は筑西市と相

談してまとめる経費とみした場合、精いっぱい予算を通して、お互いに地域住民医療のための討論をしながらみんなで築き上げていただきたいと思っ

「どうやって県西病院を再建するか」と聞くと、「それは市長が考えること」と言っている方々の今回の提案については賛同することができない。以上をもって反対討論とする。

減額修正案に対する 賛成 討論

● 市長は、「テーブルにつかせてほしい」の一点張りで、県西病院の管理者として議会にきちんと説明していない。中核病院の概略は我々に話してもいいのではないか。それがまったくない。最初の議決から七カ月経っており、真摯な態度ではない。私は病院建設そのものについて反対をしてい

るわけではない。計画の自身が不透明。よって、今回の予算の削除には賛成する。

議員みんなが考えて、担当課の職員を交えて自分たちの骨格をつくってから医療コンサルに渡すのが筋ではないか。三次の脳疾患、心疾患の医師確保は困難である。両市を合わせて十五万人で三次高度医療を担いけるのか。こういう病院を建ててしまったならば、医者が来ても、来なくても地獄、とにかく開業一日目から、今日は幾ら経費がかかって、黒字だろうか、明日はどうだろうか、一カ月単位でどうだろうかということを考えていなければならない。日々が始まるのは分かっていることだと思

● 竹島に決まって議員の間が二つに分かれた。私も大いに不満だが、やむを得ないということで賛成に回ったわけである。

その理由は三つあり、①三・一一の地震で県西病院の損傷がひどい。単独再建は難しいと院長や病院職員に聞き、中核病院

● この議案は、ほぼ一年にわたり議論してきたが、一年前と中身は変わっていない。テーブルにつくために予算を持たせてくれと言っているが、予算がなければテーブルにつけないという話は説得性に欠ける。一般事務予算の中で基本的な自分たちの考えのすりあわせをする時間はいくらでもあったはずではないか。自分たちがどんな地域医療を考えていてどんな病院がほしいのか、市長をはじめ、

議員みんなが考えて、担当課の職員を交えて自分たちの骨格をつくってから医療コンサルに渡すのが筋ではないか。三次の脳疾患、心疾患の医師確保は困難である。両市を合わせて十五万人で三次高度医療を担いけるのか。こういう病院を建ててしまったならば、医者が来ても、来なくても地獄、とにかく開業一日目から、今日は幾ら経費がかかって、黒字だろうか、明日はどうだろうか、一カ月単位でどうだろうかということを考えていなければならない。日々が始まるのは分かっていることだと思

● 県西地域、桜川市医療機関が疲弊していることは百も承知。「二五億円をどうして無駄にするのだ」と一般市民からも声が出ているようであっても、市民、桜川市のため反対の立場に回っている。なぜ、桜川市と筑西市でやらなければならぬのか。自治体で大きな中核病院をやるうとしてい